

平成 28 年度 第 2 回教育部座談会報告書

平成 28 年度教育部座談会を開催しましたので、以下にご報告させていただきます。

テーマ：臨床実習について考える

<置賜支部>

日 時：平成 29 年 1 月 7 日（土） 15 時～16 時 10 分

会 場：アクティ米沢

参加者：29 名

スタッフ：今野珠美（北村山公立病院）、鈴木孝氏（篠田総合病院）、山口広樹（篠田総合病院）
鈴木健太（青空訪問看護事業所）

<最北支部>

日 時：平成 29 年 1 月 14 日（土）14 時 45 分～16 時 00 分

会 場：山形県立新庄病院

参加者：28 名

スタッフ：栗野ひろみ（みゆきの丘）、鈴木孝氏（篠田総合病院）、佐藤有加（酒田医療センター）、
伊豆田愛（吉岡病院）、鈴木健太（青空訪問看護事業所）

内 容：①山形県理学療法学会、東北理学療法学会ポスター発表報告

②テーマに沿った意見交換会

- ・「臨床実習で大切にしていること」
- ・「フィードバックの仕方」
- ・「臨床実習症例の選び方」

置賜支部、最北支部勉強会で地域包括ケアシステム推進対策本部と教育部の共同勉強会を行いました。各支部ともに幅広い年代の方々に参加していただき、支部活動ならではのアットホームな雰囲気で開催することができました。座談会は臨床経験年数でグループ分けし、意見交換と発表を行いました。各施設の臨床実習の取り組み状況が把握でき、臨床経験年数によって重要視していることに違いがみられ、活発な意見交換がおこなわれました。

<各テーマの意見の一部>

「臨床実習で大切にしていること」

- ・話しかけやすい、質問しやすい環境をつくる
- ・学生自身が目標を明確にすること
- ・この仕事を選んでもらってよかったと思えるような実習経験をしてもらう
(病院以外の実習<介護予防や訪リハ>も見学してもらい、様々な場所での活躍をみてもらう)
- ・対象者がよくなる過程をみてもらい成功体験を多く経験してもらう
- ・社会人としてマナーを守る
- ・リスク管理の指導

「フィードバックの仕方」

- ・時間帯を業務開始前と昼休み、終了後に分ける
- ・個室で1対1にならないように配慮する
- ・デイリーノートは色々なスタッフにみてもらう
- ・チームで担当し、SVだけの意見に偏らないようにすると共にSVの負担を軽減する
- ・提出書類は大まかな内容があっていればよいのではないだろうか
(それよりも実践の時間を大事にしている、少しでも臨床・患者様に関わる時間を作っている)
- ・一方通行にならないよう、その日のうちに理解の確認をする
- ・機能面だけでなく、生活面につなげていけるように指導する
- ・緊張しないよう、冗談なども取り入れ、言葉遣いにも配慮する

「臨床実習症例の選びかた」

- ・変化が捉えやすい症例
- ・在宅に帰る症例
- ・コミュニケーションがとりやすい症例
- ・典型的な症例・学生がみたい症例

<座談会風景>

